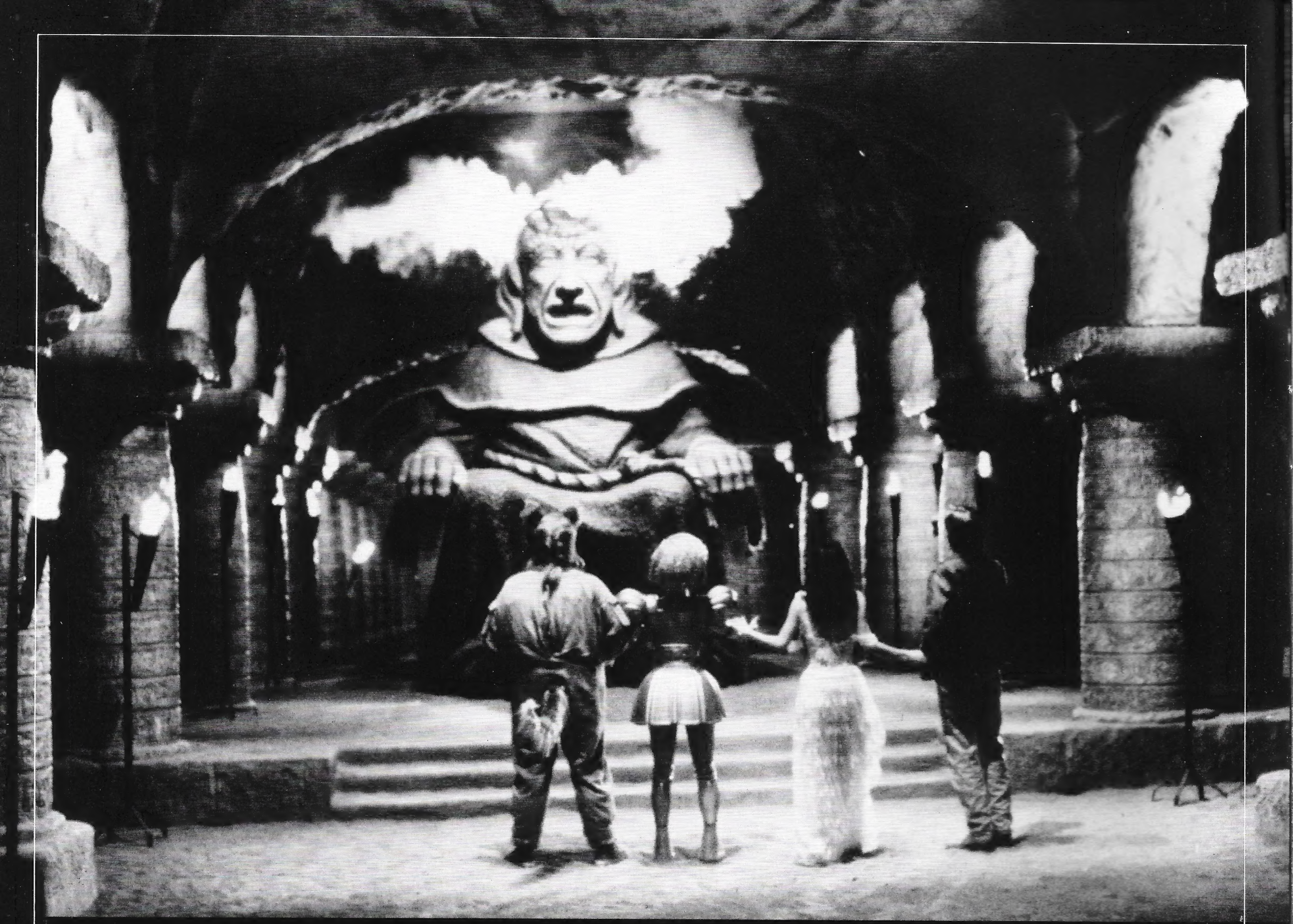

SPACEBALLS
スペースボール



●

全世界待望の
シリーズ第1作にして
完結篇！

●

# SPACEBALLS
# スペースボール

MGM映画 UIP配給 UNITED INTERNATIONAL PICTURES DOLBY STEREO IN SELECTED THEATRES

1987年　MGM／ブルックスフィルムズ製作　上映時間1時間36分

# 史上空前の超大作

神をも恐れぬトンデモナイ映画だ！そのスケールの大きさはプログラムからはみだしてしまうのだ。




〈タップ・ダンシング・エイリアン〉
なぜか物語とは関係なく、腹をつき破り飛び出して、踊りまくる。




〈バーフ〉
類犬人。ローン・スターを助け、彼の分まで食べまくる。




〈ピザ・ザ・ハット〉
宇宙に君臨するマフィア。体中、ピザでおおわれている。




〈ヨーグルト〉
神秘の力〝シュワルツ〟を持つ。彼はヨーグルトでも〝ブレーン〟を自負する。




〈ローン・スター〉
宇宙の流れ者。借金のため、ベスパ姫を助けてダーク・ヘルメットと対決する。




〈ダーク・ヘルメット〉
その仮面の中に、恐るべき陰謀と大ボケを秘めた悪の権化。




〈ベスパ姫〉
ドルイデア星のわがままな姫。〝卒業〟よろしく結婚式から逃走したものの…。




〈ロボット・C-3DK〉
ベスパ姫の召使い。姫に男が迫ると〝処女警報〟を発する。




「2001年宇宙の旅」「スター・ウォーズ」「未知との遭遇」「スター・トレック」「エイリアン」と、宇宙を舞台にしたSFは数あれど、身をよじって笑ってしまう、これほどのSFは今までになかった！

# INTRODUCTION



「昔、昔……」で始まる「スター・ウォーズ」でお馴染みのクレジットでオープンする、この『スペースボール』は、正にSF映画の集大成ともいえるSFパロディ大百科事典。クレジットが終わると、突然、“物語の第11章”というように、待ったなし、容赦なしの笑いのビーム光線が、あっちこっちから飛びかうハチャメチャコメディだ。

「ブレージング・サドル」では西部劇を、「ヤング・フランケンシュタイン」では怪奇映画を、「新サイコ」ではサスペンス映画をというように、あらゆるジャンルを題材にして抱腹絶倒の世界を見せてくれたメル・ブルックス。その彼が最後のジャンルともいえるSFに笑いの英知と全パワーを傾注、ルーカスやスピルバーグに笑いで真っ向うから勝負を挑んだともいえる、爆笑超大作である。

昔、昔、ワープした昔の地球を遠く離れた遥か彼方の銀河。自分の大気を使い果たしたスペースボール星の悪しき指導者達は、平和を愛する近くのドルイデア星から大気を奪おうと陰謀を画策。武力をもって計画を決行する。たまたま、そこを通りかかった借金に追われるイーグル５号の若き船長ローン・スターは、ドルイデア星のベスパ姫がスペースボール星人に誘拐される直前に救出。だが、強大な力を誇るスペースボール星の追っ手は、すぐ反撃にうってでた……。

ダース・ベイダーそっくりのダーク・ヘルメット、チューバッカを思わせる人間と犬のあいの子バーフ、ジャバ・ザ・ハットに似たピザ・ザ・ハットなど、「スター・ウォーズ」をもじった爆笑のシーンやキャラクターが物語の展開とともに次々に登場！

この傑作コメディで、ブルックスは例によって製作、脚本（共同）、監督の他、一人二役の主演もこなすといった大ハッスルの活躍。

いつもなら“ブルックス・ファミリー”で出演者を固めるのだが、今作は新生面開拓ということでフレッシュな顔ぶれとなった。スペースボール星のスクループ大統領と、シュワルツという霊力をもったヨーグルトにメル・ブルックスが扮している他は、バーフに「スプラッシュ」「リトルショップ・オブ・ホラーズ」のジョン・キャンディ、ベスパ姫に「ビジョン・クエスト／青春の賭け」「シュア・シング」



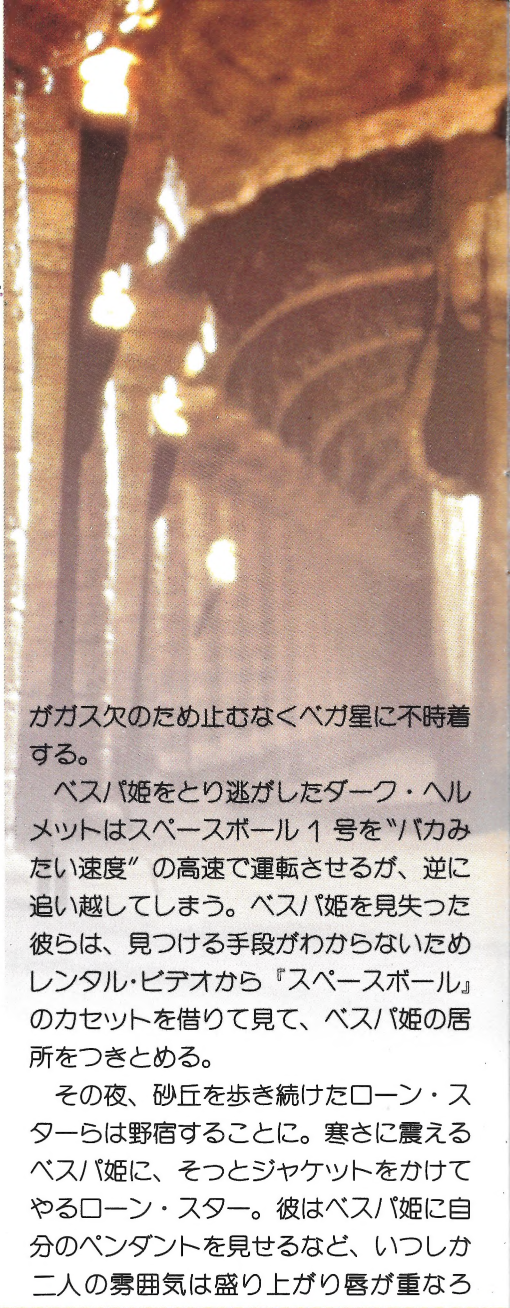
のダフネ・ズニガ、ローランド王に「ソイレント・グリーン」「新サイコ」のディック・バン・パテン、ダーク・ヘルメットに「ストリート・オブ・ファイヤー」「リトルショップ・オブ・ホラーズ」のリック・モラニス、ローン・スターに「ゾンビ伝説」のビル・プルマンなどが出演。

芸達者な演技力とユニークなキャラクターの豪華な役者の一大競演は圧巻である。スタッフもブルックスの信頼するクルーが集められた。ブルックスと共同で脚本を執筆したのは、「メル・ブルックスの大脱走」に続いてトリオを組んだトーマス・ミーハン、ロニー・グラハム。撮影は「オーバー・ザ・トップ」のニック・マクレーン、特殊効果監督は「ブルー・サンダー」「レイズ・ザ・タイタニック」のピーター・アルビエッツが担当、ブルックスの期待にこたえて見事な力量を発揮した。また、作曲は「プロデューサー」(未公開)以後、ブルックスの全作品の音楽を受け持ち、「ブレージング・サドル」と「エレファント・マン」でアカデミー賞にノミネートされたジョン・モリス。プロダクション・デザインは「ドクトル・ジバゴ」「オリバー!」で二度にわたってアカデミー賞を受賞した名手テレンス・マーシュといった最高のスタッフが結集している。






## STORY



昔、昔、ワープした昔。地球を遠く離れた銀河系――スペースボールという血も涙もない恐しい宇宙人がいた。

＜物語の第11章＞

スペースボール星の指導者達は星を取り巻く大気を無駄に使い果たしてしまい、平和を愛する近くのドルイデア星から大気を根こそぎ奪い取ろうと恐るべき陰謀をめぐらしていた。ベスパ姫を誘拐して父親のローランド王を脅迫、大気を奪うコード番号を聞き出そうというのだ。

その頃、ドルイデア星では、ベスパ姫（ダフネ・ズニガ）とアクビ王子（ジム・J・ブロック）の結婚式がとり行なわれようとしていた。しかし、アクビ王子を愛していないベスパ姫は、父のローランド王（ディック・バン・パテン）らの目の前から、ロボットのドット・メイトリックス（ロレーン・ヤーネル）を連れて宇宙船で脱出する。

イーグル５号の船長ローン・スター（ビル・プルマン）は、半人半犬のバーフ（ジョン・キャンディ）と銀河系を航行中、ピザ・ザ・ハットから明日までに100万宇宙ドルの借金を返すようにとの連絡が入る。そんな大金を返すあてのないローン・スターが途方にくれていると突然、緊急連絡が入る。スペースボール星のスクルーブ大統領（メル・ブルックス）の命令を受けたダーク・ヘルメット（リック・モラニス）が、スペースボール１号でベスパ姫を追い、レーザー攻撃をしかけてきたというのだ。

なんでも希望を叶えるから救出して欲しいとのローランド王の願いを聞き入れ、イーグル５号は救出に向かう。ベスパ姫の宇宙船はスペースボール１号のビームで引き込まれるところだったが、ローン・スターとバーフの活躍で、彼らに何も気づかれずに救出することに成功。部屋が汚いと叫び続けるベスパ姫を乗せたイーグル５号は、ドルイデア星へ向かうがガス欠のため止むなくベガ星に不時着する。

ベスパ姫をとり逃がしたダーク・ヘルメットはスペースボール１号を"バカみたい速度"の高速で運転させるが、逆に追い越してしまう。ベスパ姫を見失った彼らは、見つける手段がわからないためレンタル・ビデオから『スペースボール』のカセットを借りて見て、ベスパ姫の居所をつきとめる。

その夜、砂丘を歩き続けたローン・スターらは野宿することに。寒さに震えるベスパ姫に、そっとジャケットをかけてやるローン・スター。彼はベスパ姫に自分のペンダントを見せるなど、いつしか二人の雰囲気は盛り上がり唇が重なろうとした時、ドット・メイトリックスに内蔵されたベスパ姫の処女警報装置がけたたましく鳴った。

翌日も炎天下のもとを歩き続けたローン・スターらは遂にダウン。そんな彼らを見つけたベガ星人は水を飲ませてくれた上、聖者ヨーグルトの寺院へと運んでくれた。しばらくして気がついたローン・スターらの前に、シュワルツという霊力を持つヨーグルト（メル・ブルックス）が現われる。





指輪をローン・スターに与え、霊力を伝授するヨーグルト。彼はまたローン・スターのペンダントを見ると、いつか適当な時期がきたら、そこに書かれている文字の意味を話して聞かせると言うのだった。

ベスパ姫を必死で捜すダーク・ヘルメットらは、遂にヨーグルトの寺院に居ることをつきとめる。弱いながらシュワルツの霊力を持つダーク・ヘルメットはローランド王に変身し、ベスパ姫を寺院の外におびき出す。出てきた姫を捕えたダーク・ヘルメットらは、スペースボール1号でスペースボール・シティへと引き返した。

ベスパ姫をたてに、ローランド王から新鮮な空気を得るためのコード番号を遂にダーク・ヘルメットは聞き出すと、ドルイデア星へと向かった。

姫が連れ去られたことを知ったローン・スターらは、スペースボール・シティの刑務所に忍び込み、激しい撃ち合いの末ベスパ姫を救出。イーグル5号でダーク・ヘルメットを追った。

ドルイデア星に到着したスペースボール1号は、見る見る形を変形させ、自由の女神のような顔をしたメガ・メイドになり、手に巨大な掃除機を持ち吸引スタンバイ。スペースボール1号は合体メカだったのだ。変身し終え、空気を強引に吸い込み始めるメガ・メイド。

掃除機吸引作戦が開始後しばらくして、イーグル5号はドルイデア星に接近、メガ・メイドを見つける。ヨーグルトから教えられたシュワルツの霊力で吸引スイッチを逆に入れようと頑張るローン・スター。彼のシュワルツがスイッチを逆に入れさせると、ドルイデア星に空気が戻り始めた。イーグル5号はメカ・メイドの耳から脳の中心へと向かう。そこには、自爆装置がセットされているのだ。装置のある部屋へと近づき、スイッチを入れようとするローン・スター。その瞬間、ダーク・ヘルメットが彼の前に現われる。二人は光線剣を手に死闘を展開。闘いの途中でローン・スターはシュワルツの力を秘めた指輪をダーク・ヘルメットに抜き取られる。もはやこれまでと覚悟を決めた時、ヨーグルトの声が轟いた。

「あんな指輪を信じたのか。シュワルツの力は君の中にあるのだ！」その声に勇気づけられたローン・スターはダーク・ヘルメットを倒し、自爆装置のスイッチを押した。ローン・スターはイーグル5号に戻るとメガ・メイドから脱出。その直後、メガ・メイドは大爆発を起こした。ダーク・ヘルメットやスクループ大統領らはメガ・メイドの頭部に閉じ込められたまま爆風で吹き飛ばされる。

ローランド王からの約束の金も受け取らず立ち去ろうとするローン・スターの前に、ヨーグルトのビジョンが現われ、ペンダントには王子だと書かれていると告げた。アクビ王子との結婚式がクライマックスを迎えようとした時、ローン・スターが登場。ベスパ姫を強く抱くと熱い口づけを——。永遠の愛を 二人が誓う頃、ダーク・ヘルメットらを乗せたメガ・メイドの頭部は、名も知らぬ惑星の浜辺に不時着したのだった。





# MEL BLOOKS

## 製作/監督/脚本/出演 メル・ブルックス

この映画でヨーグルトとスクルーブの二役を演じるメル・ブルックスは、製作現場ではプロデューサー、監督、共同脚本、俳優の四役をこなしている。

1927年、貧しいユダヤ人の子としてブルックリンのゲットーに生まれる。14歳で近所の人からドラム叩きを教えてもらい、クラブなどに出演するようになった。ドラマーを廃業し、やがてヴォードビルの芸人に転向する。地方の劇場で腕に磨きをかけたブルックスは、テレビに呼ばれ、売り出し中のシド・シーザーのための番組の台本を書くようになる。こうして彼の書いたものが、エミー賞に２回ノミネートされた。

'68年「The Producers」で映画に進出、製作・監督・脚本を手がけ、アカデミー脚本賞を受賞する。一方ブルックスは、ブロードウェイの舞台も手掛け、彼のユニークなセンスは大いに歓迎された。また彼はソングライターとしても活躍し、彼の書いた忘れ難い曲「スプリングタイム・フォー・ヒットラー」は多くの音楽ファンに愛されている。

'79年に彼は、ブルックスフイルムズを設立し、ここで製作した最初の作品「エレファント・マン」は英国アカデミーで、最優秀作品賞に選ばれた他、８つのオスカーにノミネートされた。さらに、リチャード・ベンジャミンの監督デビュー作品となった「My Favorite Year」のピーター・オトゥール、「女優フランシス」のジェシカ・ラングとキム・スタンリーがオスカーにノミネートされた。

ブルックスフイルムズが初めて挑んだＳＦ作品「ザ・フライ」では'87年にベスト・メークアップでオスカーを獲得している。

『スペースボール』でも彼は数々の経験を生かして「スター・ウォーズ」のヨーダではなくヨーグルトを楽しんで演じている。また彼の夫人は「奇跡の人」でアカデミー主演女優賞を受賞したアン・バンクロフトである。

■主な作品「ブレージング・サドル」(74)「ヤング・フランケンシュタイン」(75)「サイレント・ムービー」(76)「新・サイコ」(78)「珍説世界史 PART Ⅰ」(81)「大脱走」(83)






Barf



## JOHN CANDY as Barf
### バーフ ジョン・キャンディ



ローン・スターと共に宇宙を旅する半分人間・半分犬のバーフを演じるジョン・キャンディは'88年公開された「大災難P・T・A.」等で日本でもすっかり有名である。

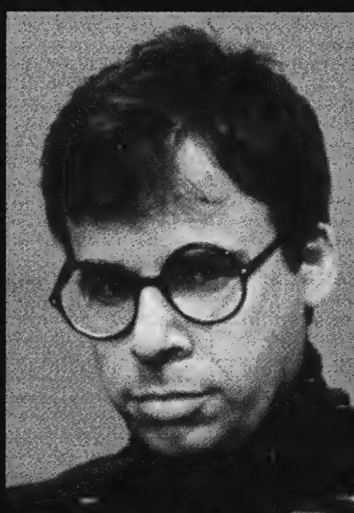
カナダのトロントで生まれたジョン・キャンディは、有名なセカンド・シティ劇団の一員として、トロント及びシカゴで、ジョン・ベルーシ、ビル・マーレイ等と共に舞台に立っていた。その後、『SCTV』のレギュラーとなり、初めてコメディアンとして脚光を浴びた。

映画デビューは「続・おもいでの夏」(73)である。「ブルース・ブラザース」(80)では、友人のジョン・ベルーシ、ダン・エイクロイド等と再びパトロール警官マーサーの役で共演した。

■主な作品「1941」(79)「ホリデーロード4000キロ」(84)「スプラッシュ」(84)「マイナーブラザース　史上最大の賭け」(85)



## RICK MORANIS as Dark Helmet
### ダーク・ヘルメット リック・モラニス



ドルイデア星の空気を盗み出し、窒息寸前の惑星スペースボールに持ち帰ろうという恐ろしい企てをする悪漢、ダーク・ヘルメットを演じるリック・モラニスはトロントをベースにした風刺テレビシリーズ『SCTV』に出演中、彼のコメディーの基礎になるものを作り上げた。

トロントに生まれ育ったモラニスは、まず地元のラジオ番組の製作に携わっていたが、しだいにラジオとテレビの番組を書く一方で演技をするようになる。カナダのCBCの仕事で認められ、『セカンド・シティ・テレビ』に参加。このプロダクションが製作したショーが'81年頃からNBCで放映され、モラニスは'82年と'83年の２度にわたってエミー賞を受賞した。

■主な作品「ストリート・オブ・ファイヤー」(84)「ゴーストバスターズ」(84)「リトルショップ・オブ・ホラーズ」(86)

# これは「スター・ウォーズ」の
# 壮大なるパロディだ！




SPACEBALLS



## BILL PULLMAN as Lone Starr

### ローン・スター　ビル・プルマン

広い宇宙をかけめぐる一匹狼ローン・スターを演じるビル・プルマンは、イースト・コーストの舞台で活躍していた。

ニューヨーク生まれで、父親は医者、母親が看護婦をしていた。ニューヨーク州立大学で演劇と英語を学び、マサチューセッツ大学で演出の勉強をした彼は、モンタナ州立大学の舞台芸術のアシスタントとして製作を手掛けた。1981年に東部に戻ったプルマンは、オフ・ブロードウェイに顔を出していたところこの映画に出演することになった。また『スペースボール』の成功により、次回作「ゾンビ伝説」の主役に抜擢された。





## DAPHNE ZUNIGA as Princess Vespa

### ベスパ姫　ダフネ・ズニガ

男まさりのベスパ姫をチャーミングに演じたダフネ・ズニガは、カリフォルニアのバークレーで生まれる。父親が哲学の教授で、幼い頃から女優になりたいとずっと思っていたが、まわりからいつも有名になるのは大変だと聞かされていた。しかし、思ったより簡単に彼女の道は開けた。映画「The Initiation」で女優としてデビューしてからは「ファミリータイズ」のエピソードで２回、マイケル・J・フォックスのガールフレンド役で出演。今年、躍進が期待される女優である。

■主な作品「ビジョン・クエスト／青春の賭け」(85)「シュア・シング」(85)





# 「スペースボール」はSF映画のパロディ集であるとともに“SF映画の時代”のひとつの集大成

映画評論家 ■冨谷　洋■

ジョージ・ルーカスがSF映画史上に残る大宇宙叙事詩「スター・ウォーズ」を作り出してから10年（全米公開は'77年、日本では翌'78年夏に公開された)、ついにその「スター・ウォーズ」世界をまるごとパロディした大笑いハチャメチャ・スペース・コメディが登場した。『スペースボール』である。

仕掛人は米国コメディ映画界にこの人ありのメル・ブルックス。しつこいギャグでみるものをたじろがせながら笑いを取るブルックスはここでも、その毒だらけのギャグを周囲にふりまき健在だ。しかもいつものように製作・脚本（共同)・監督・一人二役で出演と大活躍。あわやワン・マン映画になりそうなところを、従来のブルックス・ファミリーともいうべき出演者をはずしたキャスティングで新味をみせた（プロデューサー兼務だけにさすがに計算高い)。

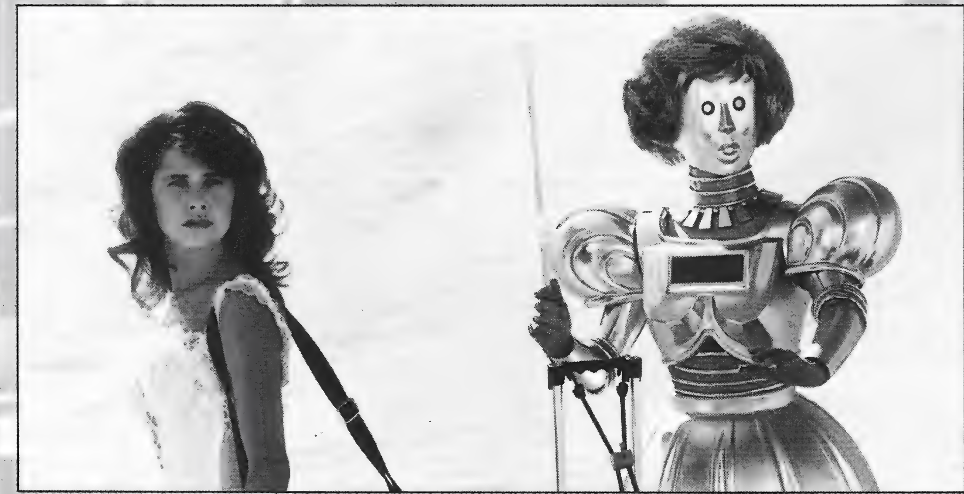
プロダクション・ノートによると、ブルックスはパロディ作品がこぢんまりしてきたのは、とんでもない大作をからかわなくなったからであり、自分が敬意を持つ大作に敢然と立ち向かってこそパロディである、というようなことを語っているが、『スペースボール』製作のきっかけはかなりいいかげんだった。

「メル・ブルックスの大脱走」の脚本をブルックスとともに書いたロニー・グレアムとトーマス・ミーハンと一緒に昼食を取っているとき、20世紀フォックス・スタジオの役員から「メル、次は何を撮るんだい？」ときかれ、とっさに「〝プラネット・モロン（惑星・低能)〟さ！」と答えたのが発端だというのだから。このときは無意識だったというが、それ以前、'81年の「珍説世界史PART I」でも巻末に〝スペース・ジョーズ〟の予告篇が入っていたりして、ブルックスには宇宙を舞台にしたパロディ映画の着想が前々からあったことを窺わさせる。いずれにしろ「大脱走」から3年、ブルックス、グレアム（司祭役で出演)、ミーハンは練りに練った脚本を持ってスタジオに入り、ここに『スペースボール』が全貌を現わすことになったのだ。

さて、ブルックスの発言では、『スペースボール』の50%は「スター・ウォーズ」の、あとの50%は「スター・トレック」や「エイリアン」「猿の惑星」のパロディとのこと。では順を追って出典を検討していこう。

開巻の〝昔、昔……〟のスーパーインポーズは「スター・ウォーズ」(以降、このタイトルが頻発するので「SW」と略す）に倣ったもの。続いて〝物語の第11章〟というサブタイトルと、手前から宇宙空間奥へ流れ、消えていく物語の説明が出る。これもご存知「SW」のマネっこで、とくに〝第11章〟の表現は、すでに公開された「SW」シリーズ3作が、エピソード4、5、6（そのサブタイトルが「新しい希望」「帝国の逆襲」「ジェダイの復讐」)だったことに対するパロディ。ちなみに、これもよく知られていることだがジョージ・ルーカスは全9作の壮大な「SW」神話を考えており、手始めにその中間3部作から映像化したといわれる。もっとも〝エピソード4　新しい希望〟というサブタイトルは初公開時にはなく、「スター・ウォーズ」の成功で、続編製作のメドがついたときに、新たにつけ加えられたもの。なお、残り6作の製作について、ルーカスは「作らない」とは表明しておらず、いつかは映像化される可能性を残している。「SW」ファンは創造主ルーカスが動くのを気長に待つしかない。





イントロが終り（ブルックス作品の音楽を全て担当しているピーター・アルビエッツの音楽が「SW」のジョン・ウィリアムス風なのにも注意しましょう)、一瞬の星空、そこに画面手前から巨大な宇宙艇スペースボール1が割り込んでくる。またまた「SW」のスター・デストロイヤーのパロディで、「SW」ファンは開巻数分だけで、完璧に『スペースボール』世界に同調するに違いない。が、ここはしつこさのブルックス。「SW」の巨大宇宙艇の描写より、はるかに長く宇宙艇の底部を見せ（そのなめ方は「2001年宇宙の旅」のディスカバリー号の描写を思い出せる)、ごていねいに、ロケット噴射口の下には〝ご意見無用〟のステッカー、いかにもブルックス映画らしい展開だ。

本作品のSFX（特殊視覚効果）監修は「ナビゲイター」のピーター・ドーネン。ドーネン指揮下でモーション・コントロール撮影や合成を行ったのは総合SFXスタジオ、アポジーだ。アポジーは「スター・ウォーズ」でアカデミー視覚効果賞受賞のジョン・ダイクストラによって開設されたSFX工房で、「宇宙空母ギャラクティカ」「ファイヤーフォックス」「スペースバンパイヤ」のSFXで知られる。今回、ダイクストラの名前はみられないが、「SW」でともに活躍したミニチュア・モデル・メーカー、グラント・マッキューンがチーフ・モデル・メーカーとしてクレジットされている。「SW」に関係したSFXクルーが参加していることで、『スペースボール』のSFXシーンが「SW」のそれの水準に近いことが納得できるだろう。

スペースボール1に乗るのはダーク・ヘルメット。以下、登場人物がテンポよく描写される。いずれも「SW」もどきであることは説明不要。キャラクターではダース・ベイダーならぬダーク・ヘルメットはじめ、チューバッカのバーフ、ジャバ・ザ・ハットもどきのピザ・ザ・ハット、ヨーダのヨーグルトが良い。とくにピザ・ザ・ハットとヨーグルトは日本人特殊メイク・アーチスト、スクリーミング・マッド・ジョージの作品。「ポルターガイスト2」「ゴースト・ハンターズ」で彼がみせたエキセントリックな感覚が出ていて楽しい。

この間にも「スター・トレック」の転送シーンのパロディ、〝バカみたい速度〟で宇宙飛行するスペースボール1、見失ったベスパ姫一行をレンタル・ビデオ（海賊版）で見て探し出すアチャラカがあって、「SW」のタトゥーイン星っぽい砂の惑星につく。ベスパ姫とヘア・ドレッサー・ドロイド、ドット・メイトリックスが歩くシーンは、「SW」のC-3POとR2-D2の道中を彷彿させる。このシーンはじめ、スペース・コンボイ〝イーグル5〟コクピットの人物配置など「SW」そっくりのカメラ・アングルが続出するのに注目したい。で、音楽はモーリス・ジャールの「アラビアのロレンス」風。そこに「SW」のジャワズならぬ6人の小人がディズニー・アニメ「白雪姫」風の音楽に乗って登場、「インディ・ジョーンズ」風の魔宮に住むヨーグルトのもとに。ヨーグルトはルーカスとスピルバーグのマーチャンダイズ商法を皮肉りながら、ローン・スターにフォースならぬ〝シュワルツ〟の奥義を授ける。捕えられたベスパ姫をローン・スターとバーフは「SW」のルークとハン・ソロのようにスペースボール兵に変装して救出。スペースボール1は日本のロボットアニメ風のメガ・メイドにトランスフォーム、ベスパ姫の故郷ドルイデア星の空気を抜くが、ローン・スターはシュワルツの力で、吸引スイッチを逆転、さらにダーク・ヘルメットとライト・セイバー風の武器で戦い、メガ・メイドを破壊、脱出。メガ・メイドの頭部が「猿の惑星」する一方、ローン・スターは宇宙軽食堂（カンティーナ風？）で「エイリアン」騒動を目撃する（特別出演ジョン・ハートの周囲の人物が「エイリアン」のクルーに似ているのをお見逃しなく)。ラストはローン・スターとベスパ姫が壇上で「SW」風にハッピー・エンド。と、出典探しは後半駆け足になったが、『スペースボール』は1時間36分、どのシーンをみても笑いの仕掛けだらけ。缶入りの〝ペリエアー〟といったブルックス得意のくすぐりから、「スター・トレック」のスポックづかみまで、パロディのテンションはこれまでになく高い。

それもつまりは「SW」から10年、その間にSF映画が優れたビジュアルを生み出したのかの証左。SF映画がパロディの対象となる名場面をたくさん作ったのかを如実に反映しているわけだ。

こうした意味で、『スペースボール』はSF映画のパロディ集であるとともに、〝SF映画の時代〟だったこの10年間のひとつの集大成なのである。

ところでパロディされた「SW」のクリエイターの反応は？　撮影中に「SW」「SW／帝国の逆襲」のプロデューサー、ゲイリー・カーツがブルックスを訪ねている。また音響効果をルーカスフィルムの一部門スプロケット・システムが担当（スタッフはリック・モラニスのダーク・ヘルメットにたじろいだという)、さらにジョージ・ルーカスはパロディは容認された行為と発言している。「SW」のクリエイターたちはたぶん『スペースボール』を大いに楽しんだのに違いない。


SPACEBALLS
スペースボール



■『スペースボール』は、「スター・ウォーズ」の壮大なるパロディである。

メル・ブルックスは語る。「映画製作者は、自分の大好きな映画ばかり真似をしているから、とてつもない大作をからかう楽しみがなくなってしまった。それでは甘い。自分が敬愛するような作品にも、パロディで敢然と立ち向かえるようでなくては」ゆえにこの作品は「スター・ウォーズ」における神話的リアリティを忠実に投影させ、独自のSFスペクタル叙事詩の外観と感触、興奮が盛り込まれている。

■新しい“宇宙の英雄物語”のプロジェクトに参加したのは、かつてブルックスとブロードウエイの“New Face Of 1952”で一緒に仕事をしたロニー・グラハムとトニー賞受賞のトーマス・ミーハンらである。

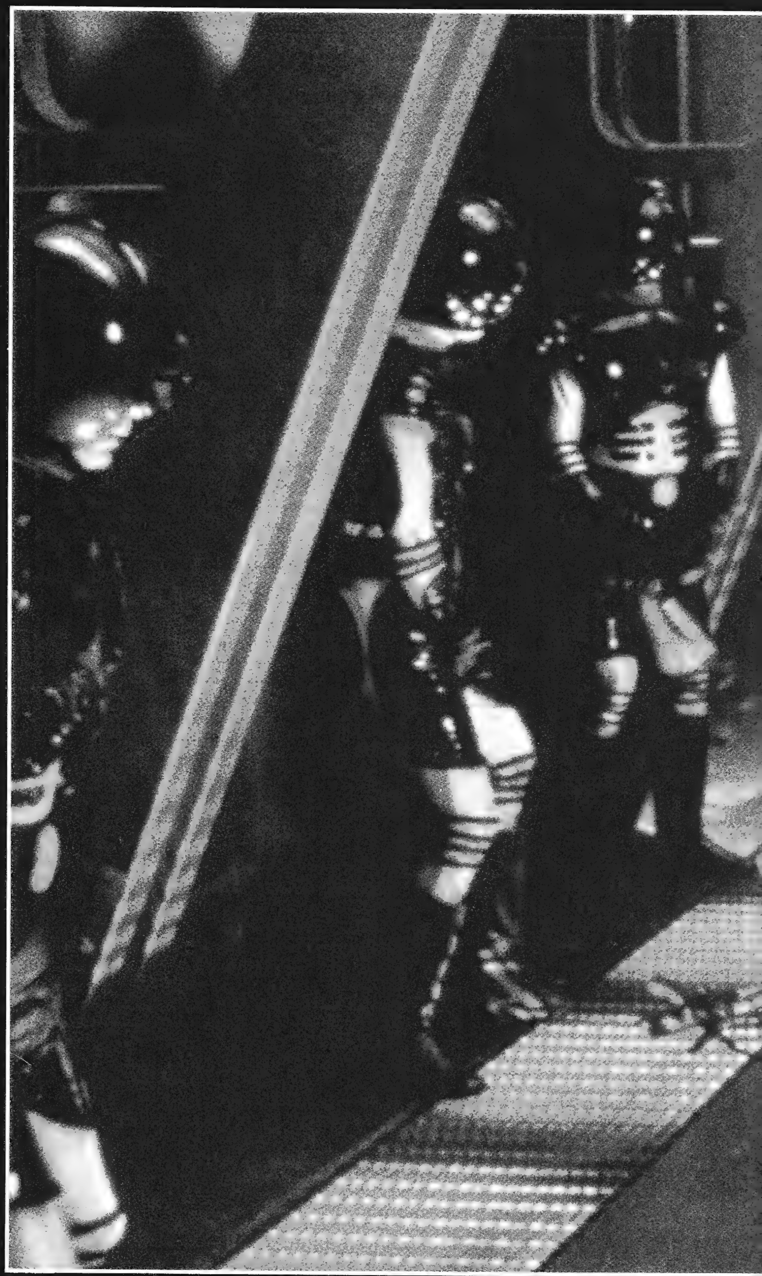
■この壮麗な舞台と、最新の特撮技術、空想的コスチュームに合わせて強力な技術チームが結成されることになった。

■製作現場ではブルックス自身がカメラを覗き、大統領スクループ（ブルックスのアナグラムである）と魔法使いヨーグルトの二役も演じた。

■美術のテレンス・マーシュの努力も余りある。カルバーシティにあるMGMスタジオのステージ30に、巨大なスターシップ、スペースボール1号のコクピットが組み立てられた。そして窓から見える広大な宇宙の景観は50にも及ぶブルーライトのパネルで出来ており、その大きさはこれまでに作られたブルー・スクリーン・システムの中では、最大のものであった。

また、スタジオ27にはヨーグルトの棲み家である地下の穴ぐらが作り上げられた。このたいまつで照らされ、40フィートの火を噴く石像の鎮座する洞くつは、「インディ・ジョーンズ／魔宮の伝説」のイメージで作られた。ちなみに50年前にオズを探しにドロシーたちが歩いたのと同じサウンド・ステージである。

■『スペースボール』のメカニカル・プロップは、特殊効果担当のピーター・アルビェッツの下に17人のスペシャリスト



# PRODUCTION NOTES

が集まった。彼らの苦労はドット・メイトリックス（C-3DK）の重なり合った頭部や砂漠におけるクルーザーの操作。そしてヨーグルトの巨像やピザ・ザ・ハットのプロップなどである。ちなみにピザ・ザ・ハットのクリーチャー・デザインは日本人のスクリーミング・マッド・ジョージの手による。ピザ・ザ・ハットのグロテスクな仕草もマッド・ジョージの操演である。彼はまたメル・ブルックス扮するヨーグルトの特殊メイクも担当した。金色の皮膚でとがった耳、隆起したしわくちゃの顔は彼のデザインである。

一方、メル・ブルックスは極端な閉所恐怖症である。ブルックスはマッド・ジョージが目の上にラテックスを貼るだけで、視界が閉ざされることを嫌い逃げ回ったのである。

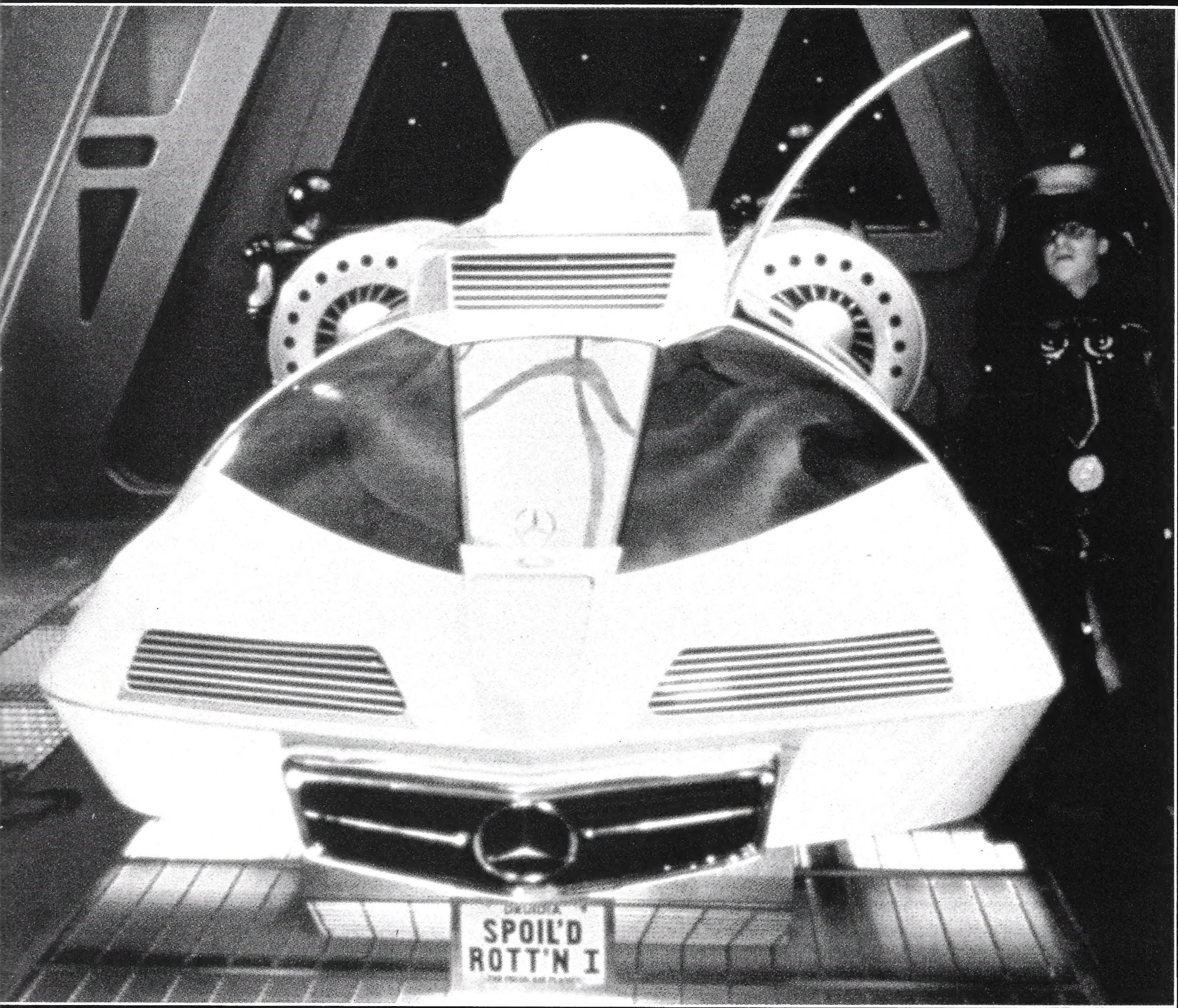
ちなみにマッド・ジョージの手がけた作品は以下の通り。「コクーン」「ポルターガイスト2」「ゴースト・ハンターズ」である。

■ドット・メイトリックス（C-3DK）の衣裳は金のよろいかぶとと金属質の髪に、回転式の頭とボールベアリングを備えた脚である。装着に1時間もかかるこのメタリックなボディがロレーン・ヤーネルの頭痛のタネであった。

■バーフは体半分が人間で、あとの半分が犬という設定である。しっぽの操作はジャンプスーツの下のメカによる。危険が迫るとパタパタとはためいたり、不時着の瞬間に目におおいかぶさったりする耳は、2人のスタッフが無線で行なった。ジョン・キャンディはそのために30ポンドのバッテリーパックを身につけていた。

■ローン・スター操縦するスペース・バン、イーグル・5号。これは本物のコンボイにジェット機の三角翼とレーダーのアンテナを付けて出来上がっている。

■コスチューム・デザイナーのドンフェルドはベスパ姫のウエディング・ドレスにハリウッドのオールド・ファッション的な魅力を取り入れた。結果的に彼女は全篇を通じて、フレアになった白いウエディング・ガウンを身にまとうことにな




る。

またローン・スターはカウボーイの騎士として見たてられた。彼は第二次大戦の飛行士のジャケットとウエスタン・ジーンズとブーツ、そしてウエスタン・ハットをかぶらせたのである。メル・ブルックスのコスチュームも多彩に富む。スクループ役のクラッシックなモーニング・スーツ姿から、ヨーグルト役の豪華なグリーンの聖職者の聖衣とつま先の曲がった靴に至るまで、計算され尽くしているのである。

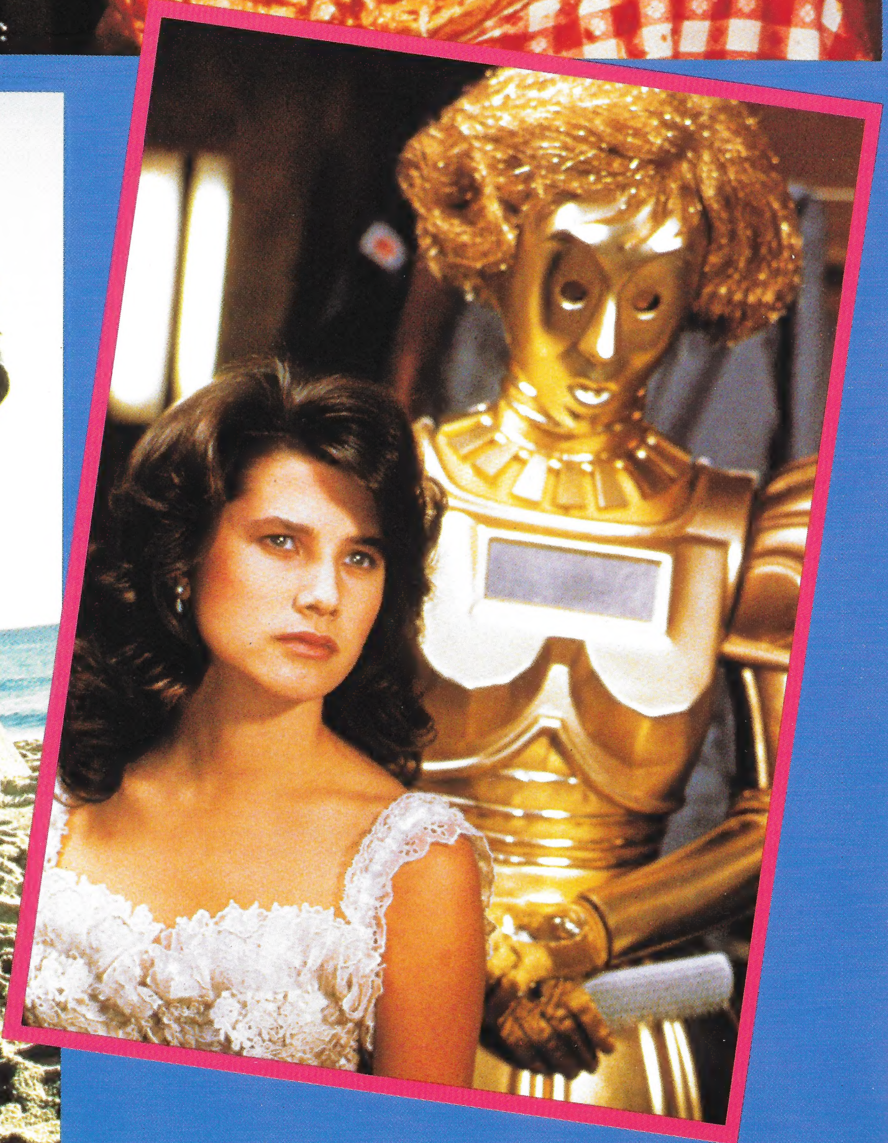
■宇宙のはるかなる彼方を舞台としている『スペースボール』のロケーションはマイク・ミーハンに任された。彼は、砂漠の月ベガをカルバーシティ近くのカリフォルニア砂漠に指定する。そしてダーク・ヘルメットの軍隊としてエキストラを召集したアリゾナ州ユマの海軍基地も州境を越えたそばである。

■SF映画史上、もっとも情ない悪の帝王ダーク・ヘルメットを熱演したリック・モラニス。彼の今回の演技はアドリブによるものも多かった。また顔面のプレートが下がっている時の重苦しい呼吸音は特殊な音声は使用しておらず、モラニス自身の声である。











| スタッフ | |
|---|---|
| 製作・監督 | メル・ブルックス |
| 脚　本 | メル・ブルックス、トーマス・ミーハン、ロニー・グラハム |
| 製作補 | エズラ・スワードロウ |
| 撮　影 | ニック・マクレーン |
| プロダクション・デザイン | テレンス・マーシュ |
| 編　集 | コンラッド・バフ４世 |
| 音　楽 | ジョン・モリス |
| 衣　裳 | ドンフェルド |
| 特殊効果監督 | ピーター・アルビエッツ |
| **キャスト** | |
| スクループ、ヨーグルト | メル・ブルックス |
| バーフ | ジョン・キャンディ |
| ダーク・ヘルメット | リック・モラニス |
| ローン・スター | ビル・プルマン |
| ベスパ姫 | ダフネ・ズニガ |
| ローランド王 | ディック・バン・パテン |
| レーダー操縦士 | マイケル・ウィンスロー |
| ドット・メイトリックス | ロレーン・ヤーネル |
| ジョン・ハート（自身） | ジョン・ハート |
| アクビ王子 | ジム・J・ブロック |

| STAFF | |
|---|---|
| Produced and Directed by | MEL BLOOKS |
| Written by | MEL BLOOKS & THOMAS MEEHAN & RONNY GRAHAM |
| Co-Producer | EZRA SWERDLOW |
| Director of Photography | NICK McLEAN |
| Production Designend by | TERENCE MARSH |
| Edited by | CONRAD BUFF IV |
| Music by | JOHN MORRIS |
| Costume Designer | DONFELD |
| Special Effects Supervisor | PETER ALBIEZ |
| **CAST** | |
| President Skroob. Yogurt | MEL BLOOKS |
| Barf | JOHN CANDY |
| Dark Helmet | RICK MORANIS |
| Lone Starr | BILL PULLMAN |
| Princess Vespa | DAPHNE ZUNIGA |
| King Roland | DICK VAN PATTEN |
| Radar Technician | MICHAEL WINSLONW |
| Dot Matrix | LORENE YARNELL |
| John Hurt | JOHN HURT |
| Prince Valium | JIM J.BULLOCK |



昭和63年6月11日発行　編集・発行／松竹株式会社事業部　定価400円


SPACEBALLS